第24回日本小児泌尿器科学会総会・学術集会

白髪 宏司
第 24 回日本小児泌尿器科学会総会・学術集会会長
社会福祉法人恩賜財団済生会支部埼玉県済生会栗橋病院副院長・担当部長（小児科）

第 24 回日本小児泌尿器科学会（JSPU）の総会・学術集会を終えましたので，報告させていただきます。基軸を「泌尿器疾患のこどもたちと家族に寄り添う医療」に据えました。「人が集い，交わって討議し，直に感じることの大切さ」を軸にしたプログラム構成としました（**写真❶**）。

- 日本小児泌尿器科学会の会員構成（2015 年 7 月現在）：総数 799 名，うち外科医 86%（小児泌尿器科：小児外科≒2：1），小児科医 9.6%，ナース 2.3%
- 学会参加者総数：457 名
- 総登壇者数：81 名
- ポスター一般演題数：162

会場エントランスにはオリジナルアートの空間を設けました（**❷上**）。ポスター作者でもある鈴木理絵様に一任しました。

小児泌尿器科教育セミナーでは，① 逆流性腎症，② 精索静脈瘤，③ 下部尿路機能障害について学びました（**❷下**）。シンポジウム 1「小児泌尿器科疾患 診療指針作成委員会報告」では，3 疾患についての診療指針を示しました（① 先天性水腎症，② 膀胱尿管逆流，③ 小児陰嚢内疾患）。シンポジウム 2「小児泌尿器科学における基礎研究の意義と面白さ」では，5 名の演者が語りました。ワークショップ 1「泌尿器科疾患を持つ子供たちを取り巻く環境と医療」では，5 名の演者が多職種討議を行いました。ワークショップ 2 では「極める―次世代の小児泌尿器科医・外科医に求められる医術を教授します」をテーマに，8 名の演者が熱弁を奮いました（**❸**）。

「Young Doctor ディベートコンテスト」では，8 テーマについて 16 名のディベーターが，林 祐太郎先生のファシリテーションのもと，論議を展開しました（**❹**）。

3 日間は素晴らしい学びに加えて出会いと交流の場となりました（**❺，❻，❼，❽**）。こども達に還元されることを確信しました。

外科系学会の開催を小児内科医が担当させていただきました。過去最多のご参加をいただき、盛会裏に終えることができましたのは、偏に、多くの方々からの温かいご支援の賜物です。この場をお借りして、厚く御礼を申し上げます。

来年、第25回は、同時期に滋賀医科大学泌尿器科 河内 明宏 先生がご担当です。

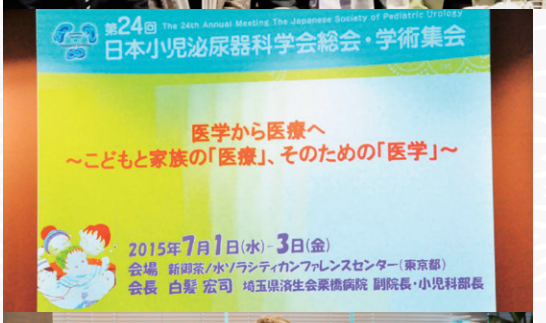
一年後、より多くの皆様と討議できることを願っております。

平成27年7月

白髪 宏司 拝

❶

Linda A. Baker 先生のご家族と



第 24 回日本小児泌尿器科学会総会・学術集会

❷

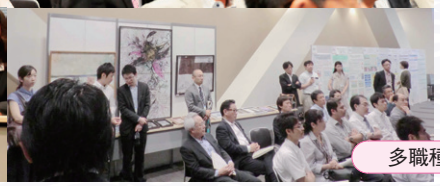
オリジナルアートコーナー

小児泌尿器科教育セミナー

❸

満員討議

場外モニターも活用



多職種でのワークショップ

❹

白熱討議

鋭いが若者には温かい討議

Young Doctor ディベートコンテスト

❺

Young Doctor ディベートコンテスト 8 組

論文賞 4 名

学会賞 4 名

受賞者の皆様と

❻

Linda A. Baker 先生（左）　長田道夫先生（左）　永田 智先生（左）　青山興司先生　松山 健先生生

「Vesicoureteral reflux: The Role of Antibiotic Prophylaxis in Treatment and the Future」（招請講演：Linda A. Baker 先生）
「小児泌尿器科疾患はどのように創られるのか：システム障害をイメージする」（特別講演 1：長田道夫先生）
「便秘を科学する―とくにプロバイオティクスの観点から」（特別講演 2：永田 智先生）
「何故今，国際貢献なのか？ ―小児外科医・小児泌尿器科医としての役割―」（パイオニアレクチャー：青山興司先生）
「夜尿症診療への非学問的アプローチ」（ランチョンセミナー：松山 健先生）

招請講演，特別講演の演者への感謝状

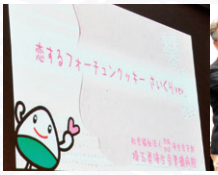
❼

Nurse Session

全一般演題をポスター発表

Poster Session

❽



蓮見プロ（ギター）と
Emmy賞受賞岸本学兄（モダン尺八）

乾杯は sparkling wine

会員懇親会